ジャパンフィッシングフェスティバル'15は1月末に

日釣工理事会で決議

（一社）日本釣用品工業会（島野容三会長）では一般社団法人としての第3回理事会を去る9月26日、東京・八丁堀の日本フィッシング会館で開催した。

理事会では、まず島野容三会長が挨拶、「国内の景気はアベノミクス効果があり、若干プラス傾向が続いている。釣り業界はタイムラグあるが、これから期待したい」と述べた。そして、定足数を確認、前回の理事会議事録を確認して各議案を審議した。

第1号議案の委員会等活動報告に関する件では各委員会より報告。つり環境ビジョン委員会に関しては事務局より報告。日釣工会員と会員外の参加状況について説明した。また、つり環境ビジョン事業収支の通期見込みについても報告。そして、（公財）神奈川県栽培漁業協会の専務理事で水産学博士である今井利為氏が去る8月2日に東京湾口で実施されたマダイの放流（20万匹）について放流方法など報告した。

JAFF実行委員会に関しては加藤誠司委員長が報告。出展社募集説明会を8月8日に東京で、8月9日に大阪で開催、参加は51社60名で、意見交換会で要望を聞いた。また出展社の申し込み状況についても報告した。

規格・安全委員会に関しては藤井治幸委員長と事務局より報告。新たなワーキンググループ設立について（仮称）ライフジャケット安全啓発WGを設立、装着率アップなど取り組む。ワーキンググループ活動では、他に釣糸WGは釣糸JAFS基準の遵守に向けた今後の予定に関してアンケートを実施を報告。釣用餌WGは釣用加工餌の製品安全ガイドライン（案）作成と発信を報告。

市場調査委員会に関しては宮澤政信委員長が報告。第17回釣用品の国内需要動向調査実施について、回答率アップのための対策及び調査内容改善策、トレンド調査実施で対象をソルトウオーターとすること、女性に関する意識調査を実施、今後の日程など説明。

島野容三会長が理事会で挨拶を

第2号議案の企画プロジェクト活動に関しては大村一仁リーダーがJAFFのあり方、釣り業界全体の未来像について、「ジャパンフィッシングフェスティバル2013」（国際フィッシングショー）終了後JAFF委員会で反省会を開催したこと（出展社数や来場者数の推移、来場者・出展社へのアンケート及び同時期に開催された他のイベントなど内的・外的要因について）、3月に開催を移し、T字戦略として「より広く」「より深く」をテーマに新たな釣人の拡大に取り組んだ2回の開催は意義があったこと、様々な観点から検討してきたが、釣り業界として将来に向けたグランドデザインを描き、つり環境ビジョン事業と連携しながら新たな釣人の拡大に年間を通して取り組んでいくこと、開催時期については来場者の「新製品を見たい」に応えるため再考する上で一つの要因になったこと、開催可能なイベント会場を検討するに当たり1月末にパシフィコ横浜で開催可能という情報があること、これらの検討結果をふまえ真摯に審議し採決した結果、満場一致で2015年より1月末の開催に決した。

日釣工はフィッシング会館の会議室で理事会を開催

環境ビジョンの放流で今井利為神奈川県栽培協専務理事が説明

第3号議案の入・退会会員に関しては、事務局より、資料に基づき報告があり了承した。退会は㈱ワイズギア、北本電子㈱。入会はヤマハ発動機㈱。9月26日現在の会員は132社（団体）。

第4号議案の平成25年度中間決算見通しに関する件では事務局より資料に基づき報告があり了承した。

第5号議案は（一社）日本釣用品工業会規則改正に関して、会計処理に関する件、会費施行規則改正に関する件を報告。顧問税理士変更に関する件も報告した。

第6号議案は平成26～27年度の理事・監事の選任に関する件を報告。

第7号議案・その他の報告承認事項に関する件は会長・専務理事の職務執行状況を報告。理事会と常任理事会の開催日の変更に関する件も報告。

以上をもって、第3回理事会の議案審議が終了したので散会した。